

現代中国語語気詞「啊(a)」の疑問文末用法

—コーパスに基づく考察

王瓊

wangqiongcarolyn@yahoo.co.jp

キーワード：中国語 語気詞 文末 コーパス

要旨

本稿では、中国語学で「語気詞」と称されるものを扱う。中から最も広く使われている「啊(a)」を取り出し、その疑問文末用法についてコーパスを使って詳しく分析する。

その結果、文末語気詞「啊(a)」が平叙文より疑問文と共起しやすいことがわかった。さらに三つのタイプの疑問文（特定疑問文、選択疑問文と当否疑問文）において、聞き手が関連する情報をより多く有する傾向のある特定疑問文に「啊(a)」がよく用いられる。さらにどのタイプの疑問文においても、平叙文と機能的に類似するとされる反語文が高い比率で観察される。

文の内容に関わる情報を聞き手がすでにある程度所有していると話し手が想定していると、「啊(a)」がつけられやすくなる。

1. はじめに

現代中国語には「語気詞」と呼ばれる品詞がある。口語的な表現によく用いられ、その表記には口偏の漢字が多く見られる。

(1-1)啊, 何等 壮丽 的 景象 啊。
a1、 どれほど 壮丽 の 景色 a2。
(ああ、なんと壮麗な景色でしょう。)

(1-2)你 也 去 看看 哪!
あなた も 行く 見てみる na
(あなたも行ってみなよ!)

(1-3)哦, 你 昨天 找 我 原来 是 要 给
o あなた 昨日 探す 私 もともと だ ~するつもり に
我 说媒, 要 我 嫁人 啊?
私 仲人をする させる 私 嫁ぐ a2
(おお、昨日尋ねてきたのは仲人をしようとするつもり、私を嫁がせるつもりだったんですね?)

例文(1-1)には「啊(a)」が二つあるが、中国語学ではそのうちの「a1」が「感嘆詞」とされ、

「a2」が「語気詞」とされる。文における位置からもわかるように、例文(1-3)の最初にある「o」も同じく感嘆詞で、例文(1-2)と(1-3)の文末に現れる「na」、「a2」などは「語気詞」である。「語気詞」は日本語の終助詞の機能に対応する場合が多い。本稿では文末や文中に現れる後置虚詞¹で、常に軽声²で発音される「na」や「a2」のような「語気詞」を扱うことにする。

2. 語気と語気詞

2.1 語気とは

「語気詞」とは何なのかを見る前に「語気」の定義を概観する。中国語学においては、「語気」という用語の意味は明確に定義されていない。「気持ちを表す」というものもあれば、「モダリティ」と同一視するものもある。本稿では、「語気」を以下のように理解したい。

(2-1) 語気は文の表す事態に対する話し手の態度を表すものである。(例えば感動、強調、婉曲、命令など)

この意味での語気はイントネーションによって表されることが多い。例えば、日本語で(a)「試験に合格した」という文を上がり音調で言うと自然に疑問文に変わる。しかし、終助詞の「か」を加えて疑問文を作ることも可能である。つまり、(b)「試験に合格したか」となる。中国語においても、日本語と同様に、イントネーションのみではなく、文末に「か」に相当する語(つまり、語気詞)を付加することで、いっそう明確に語気をあらわせる。日本語と同じ意味の(a')「考试及格了」という文に「吗(ma)」を加えると(b')「考试及格了吗」となり、疑問文として成り立つ。次の節では、この「吗(ma)」のような「語気詞」についてみていく。

2.2 語気詞について

2.2.1 語気詞とその機能による分類

朱(1982)では語気詞について次のように言われている。

(2-2) 語気詞は後置虚詞であり、常に軽声で発音される。

また、その数は限られている³。語気詞がなくても非文にはならないが、重要な役割を果たしていると思われる。

¹ 中国語学では、名詞や動詞などを「実詞」とし、助動詞などを「虚詞」として分類する。意味の面からみると、実詞は事物、動作、行為、変化、属性、状態、場所、時間などを表すが、虚詞は文法機能を有し、なんら具体的意味を持たないもの(受身マーカ-の「被」など)と、ある種の論理概念を表すもの(「なので」という意味を表す「因为」など)とがある。ここで「感嘆詞」とされるものは日本語で「間投詞」とよばれるものに近いといつてよい。

² 中国語の声調の一つである。特に上がり下がりが伴わず、軽く短く発音されることが特徴である。

³ 名詞や動詞の数とは比べられないが、現段階では40個近く確認されている。

語気詞を働きによって分類することもよく見られる。朱(1982)では、三つに分けている。

(2-3)主な働きによる語気詞の分類 (朱 1982)

I類：アスペクトをあらわすもの

了 2 (le) 呢 1 (ne) 来着(láizhe)

II類：疑問または命令をあらわすもの

呢 2 (ne) 吗(ma) 吧 1 (ba) 吧 2 (ba)

III類：話し手の態度もしくは感情をあらわすもの

啊(a) 呕(ou) 欸(ei) 嘿(hei) 呢 3 (ne)

朱によると、I類とII類のいずれも文の何らかの文法的意味をあらわすものであるのに対し、III類は話し手の態度や感情を表すものであり、I類及びII類と異なる。

語気詞は、二つまたはそれ以上組み合わせることも可能である。その場合にはI類からIII類の順番で現れるが、同類の語気詞がともに使われることはない。さらにI類とII類、II類とIII類といった組み合わせだけでなく、II類をとばしてI類とIII類との併用も可能であるが、その順番に逆らうことは見られない。二つの単音節語気詞が一つの音節になることもある。可能な組み合わせを下記の表にまとめた。

(2-4)語気詞三分類の組み合わせ方

二つでの組み合わせ	三つでの組み合わせ
I類+II類	I類+II類+III類
II類+III類	
I類+III類	

2.2.2 ほかの分類

『現代漢語描写語法』では、機能的な分け方以外に、音節的にどのように構成されているのか、文においてどの位置に現れるかなどによって、語気詞を以下のように分けて紹介している。

(2-5)異なる分類の仕方

- (I) 音節構成：単音節語気詞、双音節語気詞
- (II) 頻度：典型語気詞、一般語気詞
- (III) 単音節の音形変化：基本語気詞、派生語気詞
- (IV) 位置：文末語気詞、文中語気詞

そのうち、(IV)では、位置の観点から、文の末尾にしか現れない「文末語気詞」と、文末または文中に出現する「文中語気詞」の二つに語気詞を分類している。例文(1-1)、(1-2)、(1-3)で用いられている語気詞は文末に位置しているが、文中でポーズを置くところに用いることもある。文中で用いられる場合には、二つの働きをもつことが『現代漢語描写語法』、『語気詞と語気』などで述べられている。一つは、ポーズの標識を務めることであり、もう一

つはなんらかの語気をあらわすことである。文中に現れる語気詞は多くはないが、「啊(a)」、「呢(ne)」、「吧(ba)」、「么(me)」、「嘛(ma)」、「哪(na)」、「啦(la)」などが挙げられる。そのうち文中でも文末でも出現する「啊(a)」に注目し、下記では北京語言大学語言研究所の BJKY コーパス⁴という口語コーパスのデータを用いて、その文末用法にフォーカスし考察を試みることにする。

3. コーパスから見た「啊(a)」の実例

3.1 コーパスに観察される「啊(a)」のデータについて

BJKY コーパスにおいて「啊(a)」の使用例は 11495 例ある。男女年齢別で表にまとめると、以下ようになる。

(3-1) コーパスにおける「啊(a)」の使用例数(男女年齢別)

生年 性別	1900 年代	1910 年代	1920 年代	1930 年代	1940 年代	1950 年代	1960 年代	1970 年代	合計
女性	0	223	837	757	843	1005	583	4	4252
男性	81	675	1517	1735	1013	1564	639	19	7243
合計例数	81	898	2354	2492	1856	2569	1222	23	11495

(3-2) 「啊(a)」の使用例数の平均値(男女年齢別)

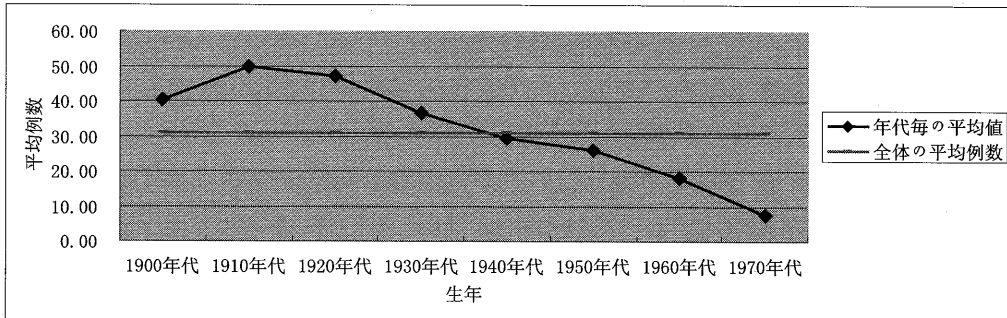
生年 性別	1900 年代	1910 年代	1920 年代	1930 年代	1940 年代	1950 年代	1960 年代	1970 年代	全員 平均
女性平均(1)	/	37.17	33.48	22.26	22.18	19.33	14.95	4.00	21.81
男性平均(2)	40.50	56.25	60.68	51.03	40.52	33.28	22.82	9.50	41.39
全体平均	/	49.89	47.08	36.65	29.46	25.95	18.24	7.67	31.07

表(3-1)では「女性」と「男性」に分けて年代毎の使用例数を示している。表(3-2)では年代毎の一人当たりの例数を、女性・男性・全体でそれぞれ計算した。1900年代の女性による発話資料はないため、「1900年代」の「全体平均」のところは計算されていない。(1)と(2)の数値を比較してみれば、「啊(a)」は女性より男性が多く使っていることがわかる。

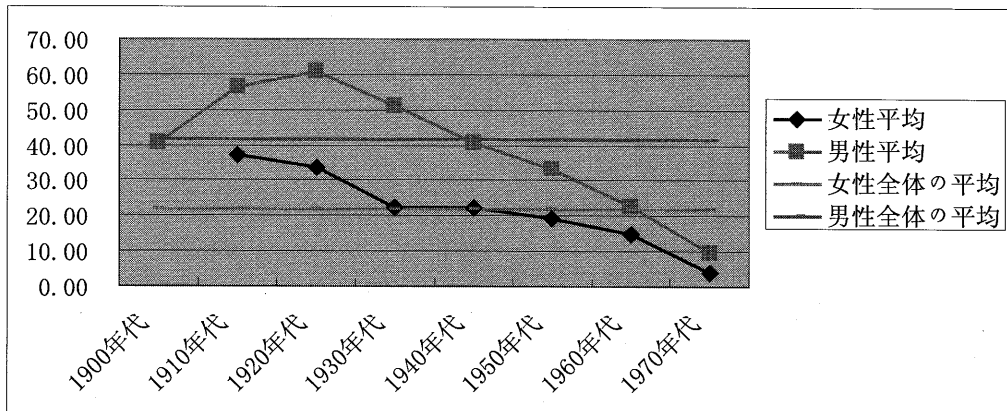
370人のデータで構成されるコーパス全体の「平均例数」を計算すると、一人当たりで31.07例となる。年代毎の「平均例数」を全体の平均値と比べると、グラフ(3-3a)にまとめられる。男女別に比較したものが(3-3b)である。

⁴ 北京語の口語表現(北京口語(bei jing kou yu: BJKY)を主として扱うものであり、1980年代に資料収集が行われ21世紀に入ってから再整理が実施されたコーパスである。調査対象の374人のうち、370人の184万字分の実際の自然談話が録音され、その後テキスト化された。1901年から1972年生まれの男女370人のうち、女性195人、男性175人のデータが収録されている。検索項目として、「生年」、「性別」、「民族」、「地区」、「教育程度」、「職業」、「話題」[ここで扱わない項目の「民族」には、漢民族、モンゴル族、満族、回族があるが、話者が全員北京生まれ北京育ちのため母語は中国語であると認識してよいと考えられる。また、「地区」は北京の各地域を指す。「教育程度」には一番低いレベルで非識字があり、一番高いもので大学も見られ、全部で8段階がある。本稿では生年と性別に注目して分析を行っていきたいと考える。

(3-3a) 「啊(a)」の年代毎の「平均例数」の変化図



(3-3b) 「啊(a)」の男女別の「平均例数」の変化図



前述の通り、1900年代の女性のデータがないので、グラフに現れていない。全体的に見ると、「啊(a)」の使用がだんだん減ってきているように見える。特に60年代及び70年代生まれの人に見られる「啊(a)」の使用が全体の平均値よりも低いことがわかる。

中華人民共和国成立後の1955年に、全国文字改革会議と現代漢語規範問題学術会議で「普通話」の定義が発表され、翌1956年に「普通話を推し広めることに関する指示」が頒布された。現代中国語もこのような影響を深く受けていることを考慮し、本稿においては1960年代と1970年代生まれの話者による発話データを扱うことにする。データには、女性40名の587例と男性30名の658例で合計1245例が含まれる。

1245例のうち、感嘆詞であると判断される213例(女性115例と男性98例)をのぞくと、語気詞の使用例は1032例ある。その1032例を、出現位置で分類すると、以下のような結果になる。

(3-4) 語気詞の出現位置

位置 性別	出現 文中	文中の割合	文末	文末の割合	合計
女性	400	84.75%	72	15.25%	472
男性	463	82.68%	97	17.32%	560
全体	863	83.62%	169	16.38% ⁵	1032

(3-4)の表でわかるように、実際の発話においては、語気詞「啊(a)」は文末より文中に現れることのほうが多い。それが使用データの80%以上を占めている。使用の偏りが存在することがわかるが、本稿では文中の「啊(a)」を考察対象としないため、下記では文末の「啊(a)」に絞って詳しく見ていきたい。

3.2 コーパスに観察される文末の「啊(a)」

文末に「啊(a)」が用いられる文がコーパスで169例観察された⁶。平叙文、命令文、疑問文すべての文末に「啊(a)」が用いられることが確認される。それぞれの数と割合は以下の表の通りである。

(3-5a) 各タイプの文末の「啊(a)」

文のタイプ 性別	平叙文	平叙文 の割合	命令文 ⁷	命令文 の割合	疑問文	疑問文 の割合	合計
女性	50	69.44%	0	0.00%	22	30.56%	72
男性	62	63.92%	0	0.00%	35	36.08%	97
合計	112	66.27%	0	0.00%	57	33.73%	169

文末の「啊(a)」のないものも含めた平叙文、命令文、疑問文は(3-5b)の分布は以下のようである。

(3-5b) 各タイプの文の分布

文のタイプ 性別	平叙文	平叙文の 割合	命令文	命令文の 割合	疑問文	疑問文の 割合	合計
女性	5192	96.76%	0	0.00%	174	3.24%	5366
男性	4451	95.23%	0	0.00%	223	4.77%	4674
合計	9643	96.05%	0	0.00%	397	3.95%	10040

上記の表で男女差は見られず、全体的に平叙文が多いことがわかる。(3-5a)と(3-5b)を比べる

⁵ 小数点の後は四捨五入計算のため合計で100%にならない場合がある。

⁶ 文末用法に「[啊]+[.]」、「[啊]+[!]」、「[啊]+[?]」という形が含まれる。

⁷ 命令文の文末にも「啊(a)」が用いられるが、ここで命令や請求の文がないのは、恐らくデータ自体に理由があるのではないかと考える。発話者とデータ収集者の談話が収集されたが、収集者の発話は収録されていない。そのため、発話者の話はモノログに近いものと考えられる。

と、「啊(a)」が使われる場合に平叙文の割合が下がるのに対して、疑問文の割合が高くなっている。例えば、このコーパスから得られる平叙文と疑問文の例文には以下のようなものがある。

- (3-6) 这 物价, 不 知道 还 长 不 长, 反正
 この 物価 ~ない 知る まだ あがる ~ない あがる どうせ
 现在 已经 可 长 得 够 邪乎儿的了。 一人儿
 現在 すでに 確かに あがる DE 十分 ひどい de le 一人
 补助 就 补助 那么 点儿 钱, 一个人儿 七块五,
 補助 JIU 補助 そんなに すこし お金 一人 七元五角
 太 少 了 也。 我 听说 大学生 补助 九块钱, 九块 也
 大変 少ない le も 私 聴く 大学生 補助 九元 九元 も
 不 够 啊!
 ~ない 十分 a

(この物価、まだ上がるかどうかかわからないが、今の上がりぶりだってもうすでに尋常でない。一人当たりの補助だと、あんなわずかのお金しか補助してくれないし、一人七元五角といってもとても少ない。大学生の補助は十元だと聞いたけど、九元にしても足りないでしょ!)

平叙文末の「啊(a)」の使用で話し手が聞き手に共感を求めているように聞こえる。文脈から見れば、「補助」のことについて語っている話し手は、物価の高騰する現状において今の金額がとても少ないと思っていることがわかる。そして、物価が上がっているのに、補助金が「那么点儿钱(あんなわずかのお金)」しかないということをあらかじめ喚起しておく。話し手が「物価の高騰」について語っていたので、この「物価」と「補助」とのアンバランスという情報が聞き手にとってもうすでに既知情報となっているはずである。その情報を踏まえて、「あなたも足りないと思うでしょ」や「ただの九元で足りるわけではないでしょ」と、話し手が聞き手に働きかけようとしている。さらにもし聞き手が「大学生」という身分であれば、「我听说大学生补助九块钱, 九块也不够啊! (大学生の補助は九元だと聞いたけど、九元にしても足りないでしょ!)」はもっと用いられやすくなる。大学生であるなら九元の生活補助金をもらっているし、足りないと当然思っているであろうと、話し手の想定が働くのである。

(3-6)の例は60年代生まれの男性の発話であるが、女性の発話においても同じような例文が観察される。例えば、(3-7)は60年代生まれの女性による例文である。

- (3-7) 去 了 一趟 齐齐哈尔 和 哈尔滨, 到 那边儿 就
 行く le 一回 チチハル と ハルピン 着く あそこ JIU
 去 了 一趟。 齐齐哈尔 吧, 还 算 可以。
 行く le 一回 チチハル ba まだ 見なす まあよい
 不过 相比之下 不如 北京 了, 北京 是 首都 啊。
 しかし 比べると ~に及ばない 北京 le 北京 だ 首都 a

(一回チチハルとハルピンに行ってきた、あそこに行ってた時に回ってきた。チチハルはね、まあまあまだ悪くない。でも、北京には及ばない、北京は首都だもんね。)

チチハルとハルピンといったところに行ってきた話し手が、チチハルという都市の印象について「悪くはないが北京とは比べものにならない」とコメントしている。このような印象を受けた理由として、「北京は首都だからね」、「地方の都会でも首都とは比べられないでしょ」と、話し手が「北京は首都啊（北京は首都だね）」という「啊(a)付きの文を使って聞き手に同意を求めている。「首都は地方の街よりきれいで繁華である」という常識の想定がここで働いているのである。

前述にあるように、「啊(a)」が疑問文と共起しやすように見えるので、両者の関係を詳しく見てみたい。疑問文を特定疑問、選択疑問、当否疑問⁸でさらにわけてみると、表(3-8)のようにまとめられる。

(3-8) 各タイプの疑問文に見られる分布

疑問文のタイプ 範囲	特定疑問	特定疑問 の割合	選択疑問	選択疑問 の割合	当否疑問	当否疑問 の割合	合計
「啊(a)」と共起する 疑問文	39	68.42%	8	14.04%	10	17.54%	57
疑問文全体	194	48.87%	45	11.34%	158	39.80%	397

疑問文のタイプで見ると、「啊(a)」のある疑問文の中に特定疑問が多いことがわかる。また、「啊(a)」が付けられると、当否疑問が減っているように見え、選択疑問と当否疑問の間において、使用頻度に大きな差異はみられない。但し、例の数を見ると、データがそれほど多くないことが影響していないとは言いきれない。

例文には以下のようなものがある。

(3-9) 说 今儿 修 好 这儿 了, 明儿 那儿 坏 了。
 言う 今日 直る よい ここ le 明日 あそこ 壊れる le
 人说 你 这 个 怎么 回事儿 啊? 这 反映
 人说 你 这 个 怎么 回事儿 啊? 这 反映
 人说 あなた これ 個 どん な 回 こと a この 反応
 挺 大。 咱 也 承认。 具体 他 不 了解 这
 とも 大きい 私たち も 認める 具体的 彼 ~ない 了解 この
 事儿 啊, 肯定 得 说 我。 说: “ 你
 こと a 必ず ~しないと いけない 言う 私 言う あなた
 说 你 这个 修得了 修不了 啊?”
 言う あなた これ 直せる 直せない a

(今日ここを直したら翌日にはあそこが壊れたって言われる。あなたこれってどういうことなのって言われる。こういう(客の)反応はかなり大げさだ。俺も(壊れやすいことは?)認める。客はこのこと(=壊れやすいこと?)が具体的にはわかっていなくてね、必ず俺に文句を言うてる。あなたこれ直せるの、それとも直せないの、(はっきり)言って、ど)

この場合に、「你说你这个修得了修不了啊?(あなたこれ直せるの、それとも直せないの、

⁸ 特定疑問文は疑問詞のある疑問文のことを指す。 選択疑問文に正反疑問文も含まれる。 述語の肯定形と否定形を選択項目として並列させる特殊なタイプのものでされる。 例えば、「你去不去?(君は行く、行かない?)」のような例が挙げられる。 当否疑問文は YES-NO 疑問文のことである。

言って)」という文の話し手は、「いったい直せるかどうかはっきり言ってよ」、または「なんで直したのにまたすぐに壊れるの?」と聞き手に対して不満を言い表しながら問い詰めているように感じられる。文脈でわかるように、「今儿修好这儿了, 明儿那儿坏了(今日ここを直したら翌日あそこが壊れた)」という状況があり、話し手は聞き手に不信を感じている。

- (3-10) 钱 不 够, 跟 家里 要 不好意思。 不 是
 お金 ~ない 足りる ~ 家 求める 恥ずかしい ~ない だ
 现在 小伙子 都 想 攒钱 娶 媳妇儿 吗? 我 也
 現在 若者 みな ~たい お金をためる 娶る 妻 ma 私 も
 有 点儿 心眼子, 我 说 钱 不 够 啊! 现在
 ある すこし 聡明さ 私 言う お金 ~ない 足りる a 現在
 物价 又 长起来 了, 连 吃饭 都
 物価 また あがり始める le 間で ご飯を食べる さえ
 顾不得 了, 还 去 还 想 那 事儿 啊?
 顧る余裕がない le まだ 行く まだ 想う そんな こと a

(お金が足りないけど、実家からもらうのは恥ずかしい。今の若者ならみんなお金をためて嫁をもらいたいじゃないか? 私もちよっと小ざかしいことをして(お金を貯めるために嘘をついて)お金足りないんだよと言ったんだ。今物価がまた上がり始めてしまって食事にさえお金をかける余裕がないのに、まだそんなことを考えてるの?(って))

「那事儿(そんなこと)」というのはお金が掛かるので、お金に困っている今は考えるべきではないと話し手が思っていることであろう。お金が足りないという状況についてすでに前の文脈で提示しているので、自然に考えれば「那事儿(そんなこと)」を考えるべきではないと聞き手も判断するはずである。ここで「啊(a)」付きの形式をとっていることから、聞き手も「そんなことは考えるべきじゃない」と思っているという話し手の想定が見える。それに基づいて話し手は聞き手に共感を求めようとしている。

- (3-11) 她 落不上 户口 啊。我们 这儿 比方说, 这么
 彼女 登録できない 戸籍 a 私たち ここ 例えば こんなに
 多 户口 吧, 每 家儿 一个 户口, 每 家儿 一个 户口,
 多い 戸籍 ba 各家 一个 戸籍 各家 一个 戸籍
 你 入到 人家 哪家儿, 人 谁 要 你 啊?
 あなた 入る ほかの人 どの家 人 誰 要る あなた a

(彼女戸籍の登録はできないのよ。私たちのところに例えばこんなに戸籍があるでしょ、各家に戸籍一つ、各家に戸籍が一つで、あなたがどの家に入ろうとしても、その家の人は誰もあなたを受け入れようとしなくてしょ?)

(3-11)の文の最初で「彼女の戸籍の登録はできない」という結論が出されている。なぜかという、一つの家に戸籍の制限があるためである。このような情報を聞き手に伝えておいた上で、もし「あなた」がどこの家に戸籍を置こうとしても「誰も受け入れてくれないでしょ」と、話し手は、疑問文の形でもう一度「彼女の戸籍の登録はできない」という明確な結論を強調しようとしている。つまり、「登録できないということになるのはあなたもわ

かるでしょ」と、話し手が聞き手に共感を求めているのである。

(3-9)、(3-10)、(3-11)の例文はすべて疑問形式であるが、反語文⁹となっていることがそれぞれの文の解釈でわかる。疑問文のうち、反語文がどれぐらいあるのかを調べると以下のような結果となった。

(3-12)反語文の割合

疑問文のタイプ 範囲	特定疑問の場合	選択疑問の場合	当否疑問の場合	合計
「啊(a)」と共起する場合	20 (51.28%)	3 (37.50%)	3 (30.00%)	26 (45.61%)
疑問文全体	48 (24.74%)	14 (31.11%)	63 (39.87%)	125 (31.49%)

反語文が疑問文全体の三分の一近くを占めているデータであったが、「啊(a)」が付けられる疑問文のみを見ると、その反語文の比率が10%以上上がったことがわかる。特に特定疑問問が使われる反語文には「啊(a)」の使用が多いことが、表(3-12)の数値を比較すればわかる。

4. 分析

「啊(a)」のようなⅢ類語気詞は話し手の態度や気持ちを表すものである。小説の会話文や親しい人の中でやり取りされるメールのような場合を除けば、書き言葉にはほとんど見られない。したがって、BJKY コーパスという口語コーパスにおいて「啊(a)」が多く観察されるのも自然であろう。しかし、3節で提示したデータの分布を説明するには話し手の態度や気持ちをあらわすというのは不十分である。そのような分布となる理由を探るため、さらにⅢ類語気詞「啊(a)」の分析を試みる。

すべての語気詞の中で、「啊(a)」がもっとも広く用いられ、平叙文、命令文、疑問文いずれのタイプの文にも現れる。いずれの文も目上の人に使われたり、フォーマルな場合に使用されたりすることはほとんど見られない。「啊(a)」は、親近感を生む、カジュアルな表現であると考えられる。しかし、これだけでは、なぜ疑問文と相性がよく3節で示されたような結果が観察されるのかについて説明できていない。従って疑問文について更なる分析が必要である。

朱(1995)などによると、語気詞の「啊(a)」は疑問文にも用いられる場合、「啊(a)」自身が疑問の意味を表すのではないが、特定疑問文と選択疑問文(反復疑問文を含む)では、それを加えることで語気が和らぐといわれる。それに対して、当否疑問文において「吗」の代わりに「啊(a)」を用いると、相手の意向や発言を確かめる意味になる。以下では特定疑問文、選択疑問文、当否疑問文を順番に見ていく。

⁹ 劉(1992)によると、反語文は疑問の形式をとるが、疑問の意味はなく、また相手に回答を求めることもせず、一つの道理とか事実を説明しようとするものである。さらに反語文を用いるとき、話し手は自分の述べる道理、あるいは事実を疑いをさしはさむ必要がないと思っていることをあらわす。

(4-1) 谁 啊?

誰 a
(誰なの?)

(4-2) 你 去 哪儿 啊?

あなた 行く どこ a
(あなたはどこへ行くの?)

(4-3) 他 妈妈 哪天 回来 啊?

彼 お母さん いつ 帰ってくる a
(彼のお母さんはいつ帰ってくるの?)

例文(4-1)、(4-2)、(4-3)のいずれも特定疑問文の例である。三つの文に疑問を担っている疑問詞があるため、それぞれ語気詞がなくても質問を表すことができる。以下で語気詞の有無のみが異なる文を比較することにする。先に(4-2)と(4-3)の二つの例文を見してみる。

(4-2a) 你 去 哪儿 啊?

あなた 行く どこ a
(あなたはどこへ行くの?)

(4-2b) 你 去 哪儿?

あなた 行く どこ
(あなたはどこへ行く?)

疑問詞のある疑問文の役割は聞き手に疑問詞に対応する答えとなる情報を求めることである。したがって、話し手は聞き手がその情報を知っているという想定しているのが普通である。聞き手に「行き先」を尋ねる時に、(4-2a)と(4-2b)のいずれを使っても自然である。但し、「啊(a)」のない(4-2b)と比べれば、(4-2a)を用いて質問するとその聞き手との間に親近感が生まれ、フォーマルな場面ではないように感じられる。この点が平叙文及び命令文と類似する。また、次のような場面を想定してみよう。とても危険なところへ行くと聞き手が言ったのに対して、話し手は(4-2b)よりも(4-2a)のように問い返すことがより想像されやすい。このような質問の仕方を用いることによって、「どこなのか教えてよ」と聞き手が提示した情報に話し手がより興味をもっていることが示唆される。そのような前提がなく、ただ会話の場を離れようとする聞き手に質問する場合なら、(4-2a)と(4-2b)のいずれを用いても自然である。同様に、「彼のお母さん」が「帰ってくる」時間について聞き手に尋ねるなら(4-3a)と(4-3b)のいずれでもよい。

(4-3a) 他 妈妈 哪天 回来 啊?

彼 お母さん いつ 帰ってくる a
(彼のお母さんはいつ帰ってくるの?)

- (4-3b) 他 妈妈 哪天 回来?
彼 お母さん いつ 帰ってくる
(彼のお母さんはいつ帰ってくる?)

例えば、「彼」と A さん（女性）二人のお母さんたちがどこかへ出かけている場合に、A さんのお母さんが明日帰ってくると聞き手が言ったのに対して、「彼のお母さん」はいつ帰ってくるのかが気になった話し手はどのように問い返すであろうか。この時には(4-3b)より(4-3a)のほうが用いられやすいと思われる。要するに、質問する場合には「啊(a)」があってもなくてもよいが、聞き手による情報に基づいて問い返す時には「啊(a)」のあるものがより使われやすくなるのである。さらに「啊(a)」の有無で(4-1)の例文も比較してみよう。

- (4-1a) 谁 啊?
誰 a
(誰なの?)

- (4-1b) 谁?
誰
(誰?)

例えば、誰も来るはずのない深夜 3 時にドアがノックされて、驚いてドアの向こうにいる人に対して思わず口にしてしまうこととしては「啊(a)」付きの(4-1a)より(4-1b)のほうが自然である。しかし、人が訪ねてきてもおかしくない午後 3 時なら(4-1a)も自然に使えるようになる。この場合の聞き手はドアの外側に立っている人物である。また、聞き手が話し手と同じ場所においてその「谁(誰)」が第三者である状況を想定しよう。もし聞き手がドアを開けに行ってきた場合、その聞き手に対しては(4-1b)より(4-1a)を用いて尋ねるほうが自然である。聞き手が誰なのか見てきたので知っているのは当然であるという話し手の想定が働いているのである。さらにその「谁(誰)」に当たる人物はその場にはいない場合も考えられる。例えば、もし聞き手が「あなたの知り合いがくるよ」と来る人を明示しないままに伝えたなら、話し手は(4-12a)のように聞き手に問いかけるであろう。つまり、答えてくれる人物、すなわち聞き手から回答を得ることは可能であると、話し手が判断した上でその情報を求めようと聞き手に働きかけているのである。発話の場の現状による判断であれ、聞き手から直接得た情報であれ、その確認を求めて話し手が聞き手に問いかける場合には「啊(a)」を用いた特定疑問文が使われやすいのである。

まとめると、特定疑問文では「啊(a)」のあるものと「啊(a)」のないものが両方使える場合もあるが、「啊(a)」の使用によって話し手とその聞き手との間に親近感が生まれ、フォーマルでない雰囲気醸し出される。また、文の内容に関わる情報を聞き手が所有していると話し手が想定している場合にも「啊(a)」付きの特定疑問文が用いられやすい。その背景には、聞き手には回答できるであろうという話し手の期待が働いていることがある。但し、そのような期待がない場合に使われる例外的な特定疑問文も存在する。例えば、次のような状況で改めて(4-2)を考えてみよう。ここで待機しろと言ったのに、それを聞き手が無視してその場を離れようとしたとする。この場合の発話としては(4-2a)と(4-2b)の二つともありうるが、(4-2a)のほうがより用いられやすい。両者は疑問形式の文ではあるが、疑問の意味はなく、また聞き手に回答を求めているわけでもない。行き先を聞いているというより、この

時の話し手は「どこにもいくな、待機しろと言ったでしょ」と聞き手を責めているのである。つまり、反語文となる。疑問詞のある疑問文が反語文として用いられる時、肯定文では否定を表し、否定文では肯定を表す。(4-2a)の文で言うと、「ここを離れるな」と言われたことが聞き手にはわかっているはずであると判断する話し手が、どこかに行こうとする聞き手に対して、肯定形式で「行くな」と注意をしている。答えを求めない点については例外的であるが、聞き手の側の情報を話し手が想定していることは今まで述べてきた「啊(a)」付きのものと同様と関連付けられる。平叙文的な性格があるともいえる。

(4-2a) 你 去 哪儿 啊?
あなた 行く どこ a
(あなたはどこへ行くの?)

(4-2b) 你 去 哪儿?
あなた 行く どこ
(あなたはどこへ行く?)

選択疑問文にも同じ説明が適用できると思われる。例えば、例文(4-4)と(4-5)のような二択の疑問文がある。

(4-4)你 骑车 还是 走路 啊?
あなた 自転車に乗る それとも 歩く a
(君は自転車に乗る?それとも歩くの?)

(4-5)你 去 不 去 啊?
あなた 行く ~ない 行く a
(君は行くのかい?)

これらを、「啊(a)」のないものと比べることにする。「啊(a)」の付かないものは単なる質問である。

(4-4a) 你 骑车 还是 走路 啊?
あなた 自転車に乗る それとも 歩く a
(君は自転車に乗るの?それとも歩くの?)

(4-4b) 你 骑车 还是 走路?
あなた 自転車に乗る それとも 歩く
(君は自転車に乗る?それとも歩く?)

しかし、「啊(a)」があると、話し手ははっきりしない聞き手に選択をせまっていることが示される。例えば、次のような状況が考えられる。先ほどまで「歩く」と言っていた相手が今度は「自転車で行こう」と言い出した場合に、話し手からは(4-4a)のような質問が出されるであろう。もちろん、特定疑問と同様に、独り言の場合にも用いられる。相手に聞かれることのない小さい声での文句などが想像できる。それに対して、単に二択の質問を相手

に聞いてみようと思ったら(4-4b)を選ぶ話し手が多いと思われる。(4-5a)と(4-5b)もそうである。

(4-5a) 你 去 不 去 啊?
あなた 行く ~ない 行く a
(君は行くのかい?)

(4-5b) 你 去 不 去?
あなた 行く ~ない 行く
(君は行く?行かない?)

「行く」と先ほど言ったと聞いたのに今「行かない」といっている相手に対しては(4-5a)のほうが自然であると判断される。はっきりしない相手に戸惑いを示す独り言としても考えられる。相手を誘おうと質問する場合に(4-5b)の文がよく用いられる。

但しここまで挙げてきた選択疑問の例文は二人称「你(あなた)」を用いるものなので、聞きたい内容に関わる人物と聞き手は重なってしまう。聞き手のことについてたずねているので、聞き手が答えを知っているのも当然のこととなる。二人称を三人称の「他(彼)」に変えると上記の四例はこのようになる。

(4-6a) 他 骑车 还是 走路 啊?
彼 自転車に乗る それとも 歩く a
(彼は自転車に乗るの?それとも歩くの?)

(4-7a) 他 去 不 去 啊?
彼 行く ~ない 行く a
(彼は行くのかい?)

(4-6b) 他 骑车 还是 走路?
彼 自転車に乗る それとも 歩く
(彼は自転車に乗る?それとも歩く?)

(4-7b) 他 去 不 去?
彼 行く ~ない 行く
(彼は行く?行かない?)

(4-6a)と(4-7a)では、「他(彼)」がどちらを選択したか聞き手が知っているという予想が働いていることが読み取れる。それに対して、(4-6b)と(4-7b)の場合なら単なる質問で聞き手の情報所有の状況に関係なく使われる。もちろん、上記の(4-4a)、(4-5a)、(4-6a)と(4-7a)の選択疑問も反語文としても解釈されやすい。

(4-4a)、(4-5a)では、「自転車に乗る」と「歩く」の二択、または「行く」と「行かない」の二択に対して、ぐるぐると選択を変えてきた「あなた」に対して、話し手が「いったいどちらを選ぶのか、はっきりと決めてよ」と不満を言っているように聞こえる。(4-6a)と(4-7a)

の例文に関して、同じく「自転車に乗る」と「歩く」の二択、または「行く」と「行かない」の二択に対して、ぐるぐると選択を変えてきた「彼」に不満を感じ、「いったいどちらを選ぶのか、はっきりと決めてくれないと困る」と事情のわかる聞き手に文句を言うように聞こえる。聞き手に答えてもらおうとしている必要はないが、いずれの聞き手も状況にある程度把握しているはずである。

当否疑問文の場合は上記の二種とはやや異なる。朱(1982)によると、対応する平叙文のイントネーションを疑問イントネーションにかえるだけで、当否疑問文に変わる。さらに疑問をはっきりとさせるために文の末尾に語気詞を付加することが多い。前でも述べたように、日本語の「か」に相当する中国語の「吗(ma)」が疑問文末によく見られる。しかし、「吗(ma)」のみではなく、疑問文末尾に「啊(a)」が付けられることも少なくない。例えば(4-8)と(4-9)の例がある。疑問のイントネーションが加わらない限り、語気詞の「啊(a)」があっても平叙文にしかならない。しかし、「吗(ma)」が用いられると、確実に疑問文になる。ここで「啊(a)」で終わるものと「吗(ma)」の疑問文とを比較してみよう。

(4-8a) 你 不 去 啊?
あなた ~ない 行く a
(君は行かないの?)

(4-8b) 你 不 去 吗?
あなた ~ない 行く ma
(君は行かないですか?)

(4-9a) 你 想 跟 我们 一块儿 去 啊?
あなた ~たい と 私たち 一緒に 行く a
(君は私たちと一緒にいきたいの?)

(4-9b) 你 想 跟 我们 一块儿 去 吗?
あなた ~たい と 私たち 一緒に 行く ma
(君は私たちと一緒にいきたいですか?)

(4-8b)は「君が行くかどうか」、(4-9b)は「君が私たちと一緒にいきたいかどうか」について聞いているが、それに対して、(4-8a)と(4-9a)はそれぞれ「君が行かない」、「君が私たちと一緒にいきたい」と話し手が前もって知っている場合の発話であると考えられやすい。いわば(4-8)の場合は「君が行くか行かないか」を、(4-9)の場合は「君が私たちと一緒にいきたいか行きたくないか」を聞き手に答えてもらうためではなく、「君は行かないのだね」、「君は私たちと一緒にいきたいのだね」と、話し手が聞き手に対して確認しているのである。独り言にも用いられることが上記の二種の疑問文と類似する。さらに三人称の「他(彼)」に二人称の「你(あなた)」を変えてみると、以下のような例文のペアが得られる。

(4-10a) 他 不 去 啊?
彼 ~ない 行く a
(彼は行かないの?)

(4-10b) 他 不 去 吗?
彼 ~ない 行く ma
(彼は行きませんか?)

(4-11a) 他 想 跟 我们 一块儿 去 啊?
彼 ~たい と 私たち 一緒に 行く a
(彼は私たちと一緒にいきたいの?)

(4-11b) 他 想 跟 我们 一块儿 去 吗?
彼 ~たい と 私たち 一緒に 行く ma
(彼は私たちと一緒にいきたいですか?)

例文(4-10a)と(4-11a)の「他(彼)」が「行かない」、「私たちと一緒にいきたい」ということを聞き手がすでに知っていて、「残念だね」とか「なんででしょうね」といった口調をこめて聞き手にその情報の正確さを確認しようとしている。このときの情報は聞き手由来ではなくても良いが、但し「聞き手が知っている」という想定を話し手は持っているのである。しかし、(4-10b)と(4-11b)の場合だと、話し手にとって情報が既知であるという読みの可能性がかなり下がってしまう。話し手がすでに答えを知っていなくても使える。このときには聞き手には必ずわかるという話し手の自信も見られない。前で述べた特定疑問文や選択疑問文に比べると、「啊(a)」が当否疑問文に使用される場合、文に反映される情報またはその一部を聞き手も共有しているという話し手の予測がよりはっきりと見え、聞き手への確認という意図もより明確なようである。話し手にとっても既知の情報を、聞き手に改めて確認するという場合に、この当否疑問文に「啊(a)」が付けられやすいのである。

疑問文にある「啊(a)」がどのようなことを示しているのかをまとめると、(4-12)のようになる。

(4-12) 疑問文末に用いられる「啊(a)」

(I) 親近感をもたらし、答えに対する特別の関心が示される。

(II) 聞き手には文の内容に関する何らかの想定があるはずであると話し手が考えていることを示す。したがって、聞き手による情報に基づいて問い返す場合によく用いられる。特に反語文において「啊(a)」がよく観察される。

文末の「啊(a)」が、聞き手には文の内容に関する何らかの想定があるはずであると話し手が考えていることを示す。但し、例外がある。聞き手がいなくても話し手が独り言として発話する場合に、「啊(a)」付きの文を用いることがありうる。つまり、呟きにも「啊(a)」が使えるのである。例えば、ノックした人の予想が付かず、「誰なんだろう」と不思議に思いながら(4-1a)のように「谁啊? (誰かしら?)」と呟くことも可能である。このような呟きの場合にも、話し手が自分自身を聞き手に見立てて話していると解釈すれば(4-12)のような説明も可能となるが、実際に自分に対して発話しているかどうかを判断することは難しい。

5. まとめ

語気詞の位置で見ると、語気詞「啊(a)」は文末にも現れるし、文中でも用いられる。文末の用法に関して、BJKY コーパスでは平叙文と疑問文の例しか観察されていないが、すべてのタイプの文に「啊(a)」は使える。使用される場合の特徴をまとめると、語気詞「啊(a)」はカジュアルな場面においてよく使われる。その使用によって、会話に親近感が生まれたり、口調が和らげられたりすることも観察できる。さらに、文末の「啊(a)」には、聞き手に文の内容に関する何らかの想定があるはずであると話し手が考えていることを示す機能が共通している。

コーパスデータの収集がほぼ同じ環境で行われたことを考えると、カジュアルな場面の発話であることは平叙文でも疑問文でも同じである。しかし、前述にあったようにBJKY コーパスで「啊(a)」が付けられる疑問文がより高い割合で観察される。さらに、疑問文のうち、反語文に「啊(a)」がより多く見られることも確認される。このことには話し手が聞き手に対して持っている想定が関係しているのではないかと考えたい。つまり、平叙文と比べると、聞き手に常に反応や答えを求めようとする意識がより高い疑問文と、答えに特別な関心を示す語気詞の「啊(a)」が共起しやすいであろう。『現代漢語描写語法』によると、反語文は「疑惑のない疑問文」とも言われる。話し手があることに対して明確な意見を持ちながら疑問形式で表現する場合に、反語文が用いられる。聞き手に文の内容に関する何らかの想定があるはずであると話し手が考えているのに、疑問文という形で表すと反語文となりやすいことも想像できる。但し、反語文の中でなぜ特定疑問形式のものに「啊(a)」が付けられやすいのかは、疑問文末に用いられる「啊(a)」の解明とともに今後の課題にしたい。

参考文献

- 于康・張勤（編）（2000）『語気詞と語気』 好文出版
- 袁毓林（1993）『現代漢語祈使句研究』 北京大学出版社
- 金水敏・田窪行則（1990）「談話管理理論から見た日本語の指示詞」 『メンタル・スペース：特集』 pp85~115 日本認知科学会（編）
- 黄伯荣（1984）『陳述句 疑問句 祈使句 感嘆句』 上海教育出版社
- 朱德熙（1982）『語法講義』 商務印書館
- 朱德熙（1995）『文法講義』 杉村博文・木村英樹（訳） 白帝社
- 徐烈炯・劉丹青（編）（2003）『話題与焦点新論』 上海教育出版社
- 孫錫信（1999）『近代漢語語気詞』 語文出版社
- 張斌（編）（2010）『現代漢語描写語法』 商務印書館
- 上神忠彦（1968）「文末語気助詞類内連用のきまりについて」 『中国語学』 No.179 pp1~8 中国語学研究会（編）
- 劉月栄（1992）『中国語の表現と機能』 平松圭子・高橋弥守彦・永吉昭一郎（訳） 好文出版
- Tao, Hongyin., 2003. Phonological, grammatical, and discourse evidence for the emergence of zhidao (知道) constructions. In: *ZHONGGUO YUWEN (CHINESE LANGUAGE)*, 291-302. Beijing: The Commercial Press.
- Wakefield, J.C., 2012. A floating tone discourse morpheme: The English equivalent of Cantonese *lol*. In: *Lingua*, 122(14), 1739-1762.

コーパス

BJKY コーパス

http://www.blcu.edu.cn/yys/6_beijing/6_beijing_chaxun.asp

On the Use of the Sentence-final Utterance Particle "啊(a)" in Interrogative Sentences of Modern Chinese: A Corpus-based Study

WANG Qiong

Keywords: Chinese, Utterance Particles, Sentence-final, Corpus

Abstract

This paper discusses issues related to utterance particles in Modern Chinese. It focuses on one of the most widely used Class 3 particles "啊(a)", paying particular attention to its sentence-final uses in interrogative sentences.

A preliminary corpus-based study of "啊(a)", which indicates skewed frequencies among its different uses, shows that "啊(a)" is more likely to occur in interrogative sentences than in declarative sentences. Among the 3 types of interrogative sentences (*wh*-questions, alternative questions and *yes-no* questions), "啊(a)" is most frequently used in *wh*-questions, whose appropriate use requires that the addressee have a greater amount of relevant information than in the case of the other types of questions. Furthermore, it is found that quite a few of the examples of all three types of questions are rhetorical questions, which are known to be functionally similar to declarative sentences.

I argue that "啊(a)", which is mainly used in casual conversations, serves to indicate that the speaker believes that the addressee already has some idea about the message conveyed by the sentence to which it is attached.

(オウ・ケイ 東京大学大学院言語学研究室)

